

学 位 論 文 要 旨

氏 名 漆畑 俊晴

題 目 社会科授業における教師の専門的能力の形成と継承
—長岡文雄の実践記録の分析による事例研究—

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

急速に変化する現代では、社会科授業において教師は自律的に子どもを捉え、カリキュラムを主体的に構成し、授業を民主主義的に遂行することが求められる。一方で、世代交代の進行により、社会科授業における教師の専門的能力を継承していくことは、喫緊の課題となっている。

そこで、本研究では、社会科授業における教師の専門的能力に関する従来の研究の課題を明らかにし、それを乗り越える研究方法と対象を検討し、解明のための分析枠組みを仮説的に設定する。これに基づいて、事例から専門的能力の構造と形成の実態を実証的に示す。さらに、解明された専門的能力を熟達教師と後進の教師たちが継承していった方途を明らかにし、専門的能力を継承していくための展望を示すことを目的とする。

第Ⅰ部では、社会科授業における教師の専門的能力の解明方法を示した。

2000年代以降に盛んになった社会科教師研究では、教科の枠組みの自明視を背景に、社会科教師の専門性に関する概念が錯綜し、研究の視角が専門性の一端に焦点化し、日常的な教育実践の場面での専門性の形成が欠落してきたという課題があった。そこで、多層的な分析が可能で、日常的な教育実践の場面での教師の変容を解明でき、過去の教師をも対象にできる方法として実践記録の分析によるアプローチを提起した。ここでは、社会科をより広く捉え、奈良女子大学附属小学校を中心に子どもの実態やニーズを詳細に把握する問題解決的な授業を民主主義的な方法で実践し続けてきた長岡文雄を研究対象に挙げた。長岡が長期に亘って残した膨大な実践記録からは、従来にない多層的な考察が可能になる。この教師の専門的能力の構造や形成を分析する枠組みを、より広い一般教育学における文脈からシステマティックレビューにより国内の先行研究の内容の整理と統合を行うことで導出した。ここでは、授業における教師の専門的能力は、表出場面の異なる「授業実践知」「実践的知識」「信念」の三層構造で表現できる。また、その中核には教師の子ども理解が存在することが推察され、各構成概念は相互に関係し、異なる要因によって形成されたと考えた。

第Ⅱ部では、この研究方法と分析枠組みを用いて、長岡を事例に社会科授業における専門的能力の構造と形成の実態を示した。

まず、授業実践知の特徴を5点解明し、長岡は民主主義的な教育実践の場面を子どもの発言に応じて授業中に即興的に構築していたことを示した。この形成要因には、教師が子どもの予想外の状況に

対して、授業実践を即興的に変容させていくことが挙げられる。次に、実践的知識の特徴を5点解明し、長岡は人間性の形成を目的に、子どもの必然的な問いから、協同的で科学的な追究を連続して促す授業を構想してきたことを示した。この形成要因には、教師が単元構想時に、以前に実施した授業について、授業中の変容が子どもに及ぼした効果を想起することが挙げられる。最後に、教師の信念の特徴を解明し、長岡は子どもの社会認識に基づく人間性の形成を、個性的な発達を尊重して詳細な段階として読み解くことができていたことを示した。この形成要因には、教師が経験したライフイベントに対する受け止めに振り返ることが挙げられる。

第Ⅲ部では、この実態を踏まえ、社会科授業における教師の専門的能力の継承を検討し展望を示した。

まず、長岡自身が社会科教員養成において、社会科授業で達成された成果についての感覚の共有と、実践者の思考の追体験による体得、不断の省察による創造の過程を通して、専門的能力を伝承してきたことを示した。次に、後進の教師たちが授業の観察や分析において、子どもを捉える方法の模倣、新たな実践の創造、熟達教師の行為の言語化を通して専門的能力を学習してきたことを示した。さらに、これらの知見から、社会科授業における教師の専門的能力の形成と継承のモデルを提示した。ここでは、専門的能力の継承のためには、①専門的能力を多層的なものと捉え、様々な資料から多角的にかつ長期的にアプローチして分析を行うこと、②社会科教師を「子どもの社会認識に基づく人間性の発達と形成に関する専門家」と位置付けること、③教師が専門的能力を形成する要因は、人生における多様な経験から日常的な教育実践における子どもからの学びまで多様に広がっているとして解明を進めること、④熟達教師による伝承と後進の教師たちによる学習の両面で、専門的能力を常に変化していく動的なものであると捉え、複合的な手法を取る包括的な継承を構想すること、が必要であると示した。

本研究の成果は、社会科授業における教師の専門的能力の形成と継承について、①事例とした長岡の実践記録をもとに包括的に解明した点、②モデルを提起し、専門的能力を継承していくための展望を示した点、③研究方法として実践記録の分析によるアプローチの有効性を示した点に集約される。